

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700971		
法人名	特定非営利活動法人 ママサポートえぶろん		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム うらら花		
所在地	北海道足寄郡足寄町旭町1丁目38番地		
自己評価作成日	令和3年12月27日	評価結果市町村受理日	令和4年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyvosyoCd=0174700971-00&Se
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一建物内に他事業所(認知症デイサービス)併設の1ユニット型(定員9名)のグループホームで、うち1名分は短期利用共同生活介護(ショート)として運営しています。併設事業所スタッフと密に連携を図ることにより、デイサービスに通所されている利用者の方々との交流も日常的に行なうことができます。昔なじみや顔なじみの方と再会し交流を図ることで、入居後も関係性を継続できるような関りを行っています。ゆったりとした家庭的な空間や雰囲気ですぐに過ごしていただけるように、入所者一人ひとりの個性や特性を活かすような工夫、その方の役割などをスタッフ会議等で話し合い、一人ひとりの状態に合わせた対応を実践できる体制づくりを行なっています。地域との関わりの方では、自治会主催の新年会や花見、老人クラブ主催の食事会への参加はじめ、防災訓練においては避難対応への協力を得る等、地域の方々の事業所に対する認知度や理解も得ることができています。また、ご家族に対しては年に1回の家族交流のほかにも定期的に日常の様子を通信にてお知らせしたり、面会、電話等にてご意見をいただいています。今後も日々楽しく幸せとさせていただけるように、イベント等を計画することで楽しみの回数を増やしたり、心地よい環境の提供など、一人ひとりの暮らしの充実を図れるように、個々人の状態に合わせたケアの方法を検討し実践していきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームうらら花は高齢者や障がい者支援の6事業を行っている特定非営利活動法人ママサポートエブロンによって足寄町に平成17年に1ユニットで開設されています。現在は認知症デイサービスを併設し、短期利用共同生活介護(ショート)と一緒に運営を行っています。
新型コロナウイルス感染症がおこる前はデイサービスとの交流がありましたが現在は制限されており、家族との面会も一時は緩和しましたが現在はテレビ電話、リモート、パソコンのZOOMで会話する状況となっています。「健やかで、その人なりの個性、暮らしを尊重し、心地よい居場所を提供します」の理念のもと管理者、職員は利用者の意向や思いを探り楽しみや役割を見出し個別支援に繋げられるように努めています。行事担当職員がおり、感染対策を取りながらドライブや道の駅、食事処での外食、なじみの理容店、商店での買い物等がで楽しみを見つけて取り組んでいます。介護計画実施の確認表で利用者一人ひとりのケアプランの実施状況を確認して、丁寧な介護ができるように努めています。
町職員である、理学療法士、歯科衛生士、保健師の力を借りて、利用者の身体機能維持の体操や健康維持の助言を得ている等、行政と連携を図っています。また、協力医療機関医師の訪問診療や24時間相談納納体制、法人には看護師が在籍しており安心の健康管理体制ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念及びケア理念を見やすい場所に提示していることでその都度確認することができる。会議記録にも記載しており定期的な振り返りができている。	法人理念、施設理念を玄関、リビングに掲示し、パンフレット、足寄町ホームページの紹介欄に掲載しています。職員会議議事録の冒頭に記載しており常に意識のもとに置き周知に努め、実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度からのコロナ禍により、感染症予防の観点からも自治体の花見や新年会の中止により参加できていないが外出を通して地域とのつながりを行っている。	町内会に加入し新年会や行事に参加していましたが新型コロナウイルス(以後コロナ禍)の為に中止になっています。ボランティアや小学校の訪問授業、保育園児の訪問も中止になっていますが、状況が落ち着いた後の再開を目指しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により地域の方との交流は難しい面もあったが、地域の商店を利用することにより理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度から年6回を目標に取り組んでおり、コロナ禍で書面開催となることもあるが、2か月に1度の開催を実施している。主に現状報告とどまっており、話し合いまでには至っていない。	運営推進会議は概ね2か月ごと、利用者家族代表、町内会役員、ボランティア関係者、有識者、地域包括支援センター職員、の出席を得て開催していますが、コロナ禍の影響で書面開催の時もあります。その時には予め、委員に意見や質問を伺い運営に反映できるように努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場福祉課高齢者福祉担当や包括、保健推進担当含め日頃から連絡をとることができている。理学療法士や保健師、歯科衛生士の訪問もあり、入居者との交流を図ることができている。	足寄町には保健師、歯科衛生士、理学療法士が在籍しており、グループホームの要望に沿って指導を得ています。また、法人の総括者が主に役場との交渉を行い積極的に協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や法人内研修を通じ身体拘束をしないケアの知識を身につけ、日常的にも身体拘束につながるようなことがないか、十分注意し取り組んでいる。必要な居室にのみ、ご家族の同意を得たうえでセンサーコールを使用している。併設事業所が休みの時に限るが、外部からの侵入を防ぐため、防犯上やむを得ず玄関の施錠を行っている。	身体拘束廃止に向けては指針を定め、総括者が委員長となりグループホーム、デイホーム各管理者、看護師、ケアマネ、主任が委員となり3か月毎に開催しています。各事業所の事例検討等を行い、毎月の職員会議の中で研修に取り組み、適切な対応が出来る様に行っています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員は法人内研修を通じ、虐待について学び、理解を深めている。職員間でも目に見える暴力だけでなく、言葉遣いや身体の衛生、精神的苦痛を与えていないか等細かく注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる方がいないため勉強会は開催していないが、今後のためにも学習会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や内容変更時など必要な時には書類を使用し説明を行い、理解していただくように努めている。契約等に携わる職員は内容を理解しているが、ほかの職員はあまり目を通すことがなく、内容に関して説明しておくことが必要。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況報告と合わせてご家族からの要望を確認するよう努め、改善すべき点は早急に行うよう心掛けている。面会に来られないご家族に関しては、定期的に電話などで状況を報告を行っている。	利用者、家族の意見や要望は日常の会話や面会時に把握するように努め職員間で情報を共有し改善しています。利用者の要望は外出や食べ物のことが多く行事担当が工夫して楽しめるように取り組んでいます。現在コロナ禍で家族との面会が難しくリモート面会も取り入れ行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や事務局に相談できる環境づくりを設けているほか、定期的に個人面談を行い短時間ではあるが聞き取りを行っている。	職員の意見や提案は業務の中や毎月の職員会議、個人面談で把握するよう努めています。研修計画を年度当初に作成し担当職員が資料をそろえ講師となって行っています。資格取得には事業所の補助が用意されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況に合わせた勤務体制や環境づくりを行っている。事前に休み希望を聞き取りしうえで勤務表に反映し、ほぼ希望通りの勤務表を作成している。また、個々の力量に合わせた業務を行うことで負担にならないように且つ、やりがいを見いだせるような配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修で職員個々に応じた研修内容を設定し勉強会を行っている。外部研修は、コロナ禍であることから中止になったものもあり機会が少なかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会への参加により、接する機会はあったが、コロナ禍で交流まではいかなかった。他GHの見学や交流は、今後も検討していきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して暮らしていけるよう、事前に担当ケアマネからの情報を細かくもらったり、職員間で情報を共有しました、不明な点などがあればご家族や本人に聞きながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの開始段階から面会時においてもご家族の要望や思いに傾聴するよう心掛け、施設に対する不安等を軽減できるよう努めてきた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に必要なと思われる支援の方法を見極めながら、サービスの計画の立案・提供までを実施することと併せて、ほかのサービスを合わせることができないかを関係機関と調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活をするうえでその方がどんな支援を必要としているのかを把握し、過剰な介護はせずにその人らしさの生活を送れるように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には定期的及び必要時に現状報告を行っている。コロナ禍で面会の機会は減ってしまったが、ともに考え方向性を共有することでご本人を支えていくような関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により厳しいこともあるが、なじみの商店や食事処などに外出することにより、これまでの関係性が継続できるよう、支援している。また、桜や紅葉見学など、慣れ親しんだ風景を見ることができるよう、外出も行っている。	現在のコロナ禍で思うような交流が出来ない中、行事担当職員が利用者の意向を伺い、普段から利用していた町内の理容室や商店、道の駅への外出を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の相性や能力に合わせた作業等を考えたり、くつろぐ際のそれぞれのソファの座る位置などについても考えて支援しているほか、利用者間でトラブルが起こりそうなときは、フロアスタッフが間に入ることで関係性の悪化とならないように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの退去者について、サービス終了後は直接的な関係は途絶えてしまっている。相談等があればできる限り対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの好む暮らしや食の嗜好、買い物などについて把握し、可能な限り希望に添えるよう支援している。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の意向は日常の介護の中で話を伺いながら把握しています。利用契約時の生活歴を参考にし職員が共有し実践できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろん、ご家族からの聞き取りや、在宅時・他施設利用時の担当ケアマネジャーからの情報をもとに、生活歴やなじみの暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体・精神状態を日々の申し送りや業務の引き継ぎにおいて把握し、個々に合わせた支援ができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の言動や行動、ご家族からの要望やスタッフからの意見や情報等を踏まえて、本人の生活の質を重視した介護計画の立案を行っている。また、毎月の会議においても、スタッフの意見やご家族からの要望などを共有できるよう努めている。	介護計画は利用者、家族の意向を把握しながら基本的には短期目標期間の6か月ごとに見直しをしています。職員は個人ファイルでケアプランや出勤時には申し送りノートで様子を確認しています。毎日の介護サービスはケアプラン確認票でチェックし見直しに繋げ現状に即した介護計画になるよう取り組んでいます	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンでの個人記録やヒヤリハット、申し送り等で個々の言動や様子を日々把握しているが、ケアの実践の有無の把握は難しく、記録が不十分なこともある。改善や工夫が必要な時は会議等で検討し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのここに応じた柔軟な対応を行うよう努めている。少しでも変化があれば会議等で話し合い検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で自治会や町の行事への参加が中止になったこともあり地域の方との交流が少なかった。今後はボランティアも活用したい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域のかかりつけ病院や歯科医院、保健師などとも関係を築き、月2回の訪問診察や定期受診に出かけることで利用者の状態に応じた柔軟な対応を行っている。また、受診時に的確な情報を伝えられるよう、努めている。	グループホームの協力医療機関により月2回の訪問診療を受けていますが、他のかかりつけ医への受診の利用者もあり町内は事業所で対応しています。医療機関とは24時間対応の協力が得られています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師への連絡体制(24時間オンコール体制や連絡ノート)、提携している訪問診療機関の看護師への連絡体制の確立もあり、緊急時における体制づくりについても整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要時には経過等日常生活の変化など質問されたことを伝えられるよう、職員間で情報共有、町内各位医療機関との情報交換や調整を行い安心して治療ができるよう、努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化している利用者様のケアは、ご家族や本人の意向をきき、職員間でも話し合い、今後の過ごし方について検討し支援を行ってきた。終末期については看取りを希望されているご家族は少ないが、医療機関との連携なども確認しておく必要がある。	重度化した場合や終末期については、契約時に意向を確認しできる限りの支援を行う事を説明しており、家族からは看取りについての希望はなく取り組んでいない状況となっています。	策定してある、「認知症対応型共同生活介護事業に於ける看取りに関する指針」を全家族に説明し理解を得ると共に、職員への研修を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命救急講習を受講していたが、コロナ禍であることから中止している。嘔吐・急変時に備えて定期的に勉強会を行っているが、職員によっては未経験の者もあり実践的な確認も必要である。また、夜間緊急時の連絡体制を整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署立会いの下、避難訓練を実施している。コロナ禍であることから、利用者や職員全員参加での実施は行えていないことや、夜間一人での避難訓練・自治会と合同の訓練などは今後行っていく必要がある。	避難訓練は年2回、消防署の指導と助言を得て実施しています。併設のデイホームと共同で日中、夜間想定で開催しており、コロナ禍以前は地域の協力を得て取り組んでいます。また、防寒対策や食糧備蓄を行っており体制を築いています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを意識し、利用者様の誇りやプライバシーを気づけない配慮をしている。	利用者一人ひとりの人格や誇りを損ねない言葉掛けやさり気無い誘導を心掛けています。呼びかけは苗字にさん付けを基本とし、丁寧な言葉を使うよう指導しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話などの中で要望や困りごとなどに耳を傾け、できる限り自己決定できるような関わりを持っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援しているが、起床や就寝は個々によっても異なり、なるべく本人のペースで支援を行ってはいるが業務を優先してしまいがちなところがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が決めるのではなく、選べる方にはなるべく自分で衣類を選んでいただいております、自分で決めるのが難しい方に、職員と一緒に選んでいる。時折髪の毛や衣類が乱れたままになっていることがあり、配慮が必要。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや盛り付けについてはできる限り行っていたり、また、今年度は食レクの機会を増やし、盛り付けや食材を切るなどその方に合わせたお手伝いを支援しているが、もっと日常生活での支援をしていくことが課題。	管理栄養士が献立を作成し調理担当者が主に食事を作っています。日常から利用者の好みや希望、味付け等の話を聞き管理栄養士に伝えて希望に沿った食事になるように取り組んでいます。また、誕生日には職員の手作り料理やケーキでお祝いを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成する献立によりバランスのとれた食事を提供している。水分量は一日の目安を1000～1200mlにして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、夜間の義歯洗浄を実施している。難しい方もいるが、一日一回の口腔ケアを実施している。また、町保健推進担当の歯科衛生士や協力機関である歯科医の往診により、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自らの訴えがない方には時間を見て誘導し、トイレでの排泄を支援している。	個々に排泄記録を取り、時間での誘導や状況、様子を伺いながらさり気無い声掛けに努めています。ほとんどの利用者が自力歩行が出来排泄も見守りと少しの介助で行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操を始め、食事にも野菜を多く使ったり乳製品や水分を多くとることで自然排便を促している。排便がない時は主治医と相談し、個々の状況に合わせて支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室が他事業所と合同利用になっているため、午後からの入浴となっている。ご本人の希望で曜日が固定になっている方もいるが、個々の体調に合わせ週2回の入浴ができるよう声掛けの工夫をし支援している。	入浴は週2回は入れるように支援していますが、その日の様子や状況で柔軟に支援しています。同性が希望の利用者には希望に沿った介助に取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣にあわせて起床や就寝の声掛けを行っている。昼夜逆転とならないよう日中の運動や体操を行ったり、居間や居室の温度や湿度にも注意し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬についてはすぐに確認できるよう、診療報告書とともにファイリングをし保管している。処方の変更があれば申し送りして周知しているが、服薬時のインシデントもあり、注意していきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の好みや習慣が違うため、それぞれに合わせた楽しみ事や役割を支援している。季節の飾りを作ったり、機会は少なかったが天気の良い日には散歩や外気浴なども支援したが、もっと個々の力量を見極め、個別ケアを行えるようにしたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のために町主催の催し物や自治会の行事が中止になり、外出の機会や地域の方との交流があまりなかった。緊急事態宣言が解除されてからは外出の機会を設け、人の多い時を避け、誕生日などに外食や買い物・散歩の支援している。	コロナ禍にあつて地域や知人との交流が制約されており、楽しみは少なくなっていますが、行事担当者が行事や個別の楽しみを見出すことに力を注ぎ取り組んでいます。道の駅や外食、馴染みの美容室への訪問、ドライブ、近所への花見、散歩と感染対策に努めながら行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は基本的には事務局で行っているが、現金を所持している方が5名おり、定期的に金額の確認を行っている。通院時や買い物利用の際には利用者自身に支払ってもらうなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人から手紙が届いた時には本人に渡している。また、荷物が届いた際にはお礼の連絡をし、耳が遠い方には職員が間に入り会話をしてもらえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がわかるような飾りつけをしたり、温度・湿度管理、臭いなども常に注意を払っている。また、職員間の声の大きさや動きが不快にならないよう、気を付けている。	オール電化、空調設備、加湿器が備えられているリビングは換気を含め快適に保たれています。季節が感じられる飾りつけや足寄町の作品展に出品した作品を飾り落ち着いた雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所にこだわりがある方もいるがなるべく固定せずに座っていただいている。共有空間に限られているため、一人になりたいときは部屋ですごしたり、気の合った方とお話をしたりと思い思いにすごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際に使い慣れたものを持ち込まれ、なるべく物の位置を変えないよう努めている。泊りの部屋には、ホテルのようなイメージをすることで、できるだけ心地よい空間を提供できるよう心がけている。	居室はクローゼット、タンス、ベットが用意されており利用者個人のテレビや椅子が配置されています。家族の写真や絵を飾り自宅同様に暮らせるように工夫しています。また、一室はショート用に用意されテーブル、テレビでホテル風な空間になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の入り口には札をかけ、歩行経路には不要なものを置かない配慮をしている。またタンスには中のものがわかりやすいようにシールを貼っている。		